

令和5年度

まちづくり懇談会実施結果報告書

(雀宮地区)

宇都宮市総合政策部広報広聴課

<p>令和5年度 第5回 まちづくり懇談会《雀宮地区》実施結果報告書</p>

この実施結果報告書は、まちづくり懇談会《雀宮地区》における発言の要旨をまとめたものです。

- 1 開催日時 令和5年9月26日（火）午後6時30分～午後8時00分
- 2 開催場所 雀宮地区市民センター
- 3 参加者数 18人（市出席者除く）
- 4 市出席者 市長，総合政策部長，広報官，地域まちづくり担当副参事，雀宮地区市民センター所長，道路保全課長，広報広聴課長

5 懇談内容

- (1) 地域代表あいさつ 雀宮地区まちづくり推進協議会 会長
- (2) 市長あいさつ
- (3) 地域代表意見

No.	テ ー マ	所管課
1	雀宮地区の活性化について	①技術監理課，河川課， 危機管理課 ②河川課，技術監理課 ③交通政策課
2	防災情報の収集と伝達について	危機管理課，警防課
3	地域活動の市職員への参加促進について	みんなでまちづくり課 人事課

(4) 自由討議

No.	要 望	所管課
1	雀宮南小学校の剪定ほかについて	学校管理課 学校教育課 みんなでまちづくり課
2	最悪を想定した行政運営について	政策審議室 財政課 NCC推進課
3	道路整備について	道路保全課

4	子育て支援ほかについて	子ども政策課 公園管理課 保育課 道路保全課
5	宇都宮市の役割について	観光交流課 商工振興課 農林生産流通課

(5) 来賓あいさつ

市議会議員 篠崎 圭一 氏

市議会議員 中塚 英範 氏

市議会議員 原 ちづる 氏

(6) 市長謝辞

■地域代表意見 1 (要旨)

テーマ	雀宮地区の活性化について
-----	--------------

前回、平成30年度に行われました雀宮地区まちづくり懇談会において、「ネットワーク型コンパクトシティと雀宮地区のまちづくり」について意見を述べさせていただいたが、その中で申し上げた「雀宮駅周辺の道路整備」は徐々に整備が進んできつつあるので、その期待とその動向等について、3点ほど再度意見を述べさせていただく。

①

まず、雀宮駅西口の道路整備については、駅前通りが優先的に進められ、また、周辺の都市計画道路などの道路整備もかなり進捗しているように見受けられ、この事について感謝を申し上げる。

一方、雀宮駅東口の道路整備については、未だ整備が進んでいるようには見受けられない。道路を整備しようとするれば、用地の問題、交通量の問題、商業の振興の問題などが出て、必ずしもすべての条件が満たされるわけではないと思うが、実は雀宮駅の東、約1.2km先には一級河川「田川」がある。平成27年9月の大雨の時には、この田川があふれそうになり、60名ほどの方が雀宮東小学校に避難をし、また、平成28年の秋の大雨の時には、雀宮東小学校東側の田川の堤防が大きく洗掘されるような被害が出た。そして、令和元年の台風19号の時には、やはり田川が溢れそうになり、主に地区の東の方面に住んでいる皆さんがここ雀宮地区市民センターに約130名、そして雀宮中学校に約150名の方が避難をしてこられた。

問題はそれらの避難所に向かう避難経路であり、田川には南から2千年都橋、野ヅ花橋、孫八橋、田町与橋、下反町橋、中島橋が架かっているが、いずれの橋も通行できなくなり、この時通行できたのは、宇都宮環状線（宮環）の上御田橋だけであった。以上のことや、週末のインターパーク周辺の交通渋滞の緩和の面からも、雀宮駅東口と中島町の小島豊店前を結ぶライン上に、宮環の上御田橋のような大きくて頑丈な橋を田川にかける事をお考えいただけないかというのが一つ目のお願いである。

②

次に、二つ目のお願いとして、雀宮地区における道路・河川の整備方針についてである。雀宮地区には南北に田川、姿川そして準用河川の新川が流れ、道路は旧4号国道や上三川街道が走り、これを横断するように宮環、そして県道184号安塚雀宮線などが通っており、通勤客や買い物客が日頃からこの道路を利用している状況である。道路の整備については、国道4号の雀宮地区市民センター付近はほとんどの時間帯で渋滞が発生しており、また、インターパーク付近の道路は週末など渋滞が酷く、渋滞に巻き込まれると、車での動きがとれなくなっているようである。

以上、述べたような道路や河川のほとんどは直接市が管理するものではない

と思うが、快適で安全に暮らすことを望む地域の人達にとっては、悪いマイナスイメージを与える事になると考えている。雀宮地区における国道・市道の道路整備の状況や渋滞緩和、そして河川の改修計画、田んぼダムや調整池等の治水計画並びに、特に新川の浚渫計画等について教えていただきたい。

③

そして、三つ目はデマンドタクシーの件である。雀宮地区ではデマンドタクシーが導入され、今年の9月で10年目を迎えることになるが、現在43自治会の内23の自治会において、そして今年の9月から更に4つの自治会において導入がされた。これにより、本地区の自治会加入世帯の約82.5%の皆さんがデマンドタクシーを利用できる状況になり、さらに今後もいくつかの自治会で導入計画が出てきている。

このようにデマンドタクシーを利用できる地域が順調に増えてきた理由は、高齢者に優しい乗り物であるとともに、安価に利用出来るためと考えている。

一方、このデマンドタクシーの運営には課題がないわけではない。その一つはデマンドタクシーの認知度の問題や利用者の固定化の問題、またもう一つの問題は運行事業者との価格交渉の事務である。今後さらに利用しやすく、そして皆さんに愛されるデマンドタクシーを更に目指す為、デマンドタクシーの事業の改善や利用促進のアイデアについて更なるご支援をお願いするものである。

回 答	所管課：①技術監理課，河川課，危機管理課 ②河川課，技術監理課 ③交通政策課
------------	-------------------------------------------------------------------

【市長】

本年9月8日に台風13号があった。その際には、会長を始め避難所開設にあたっていただき、また、自主防災会の皆様方にご協力いただき、感謝申し上げます。

①

まず、一つ目の雀宮東側の避難所に向かう避難経路であるが、雀宮地区東部エリアは、風水害時において優先的に避難所が開設される最寄りの「雀宮地区市民センター」や「雀宮中学校」までの避難経路が限られていることから、日頃から避難経路を確認しておき、親戚・知人宅に避難することや、田川の東側にお住いの方などは、田川を渡らずに避難できる隣接している地区である瑞穂野地区などの避難所に避難をすることも検討していただくとともに、市としても気象情報を収集し、早めの避難情報の発令に努めるので、「高齢者等避難」の発令に合わせ、道路が冠水する前に早めの避難をお願いしたい。

なお、雀宮地区においては、令和元年東日本台風による被災を踏まえ、栃木県が実施する調節池や河道掘削の整備と、本市が実施する田んぼダムや公共施

設貯留などの「貯める」取組を連携させながら、田川の浸水被害の軽減に取り組んでいることなどから、御提案の田川への橋の設置についても対策の一つではあるが、田川における水害対策の効果や雀宮地区の交通状況の変化を見極めつつ、様々な対策を検討しながら、実施していきたい。

②

次に、二つ目の雀宮地区における道路・河川の整備方針については、道路整備や渋滞緩和に向けて、国において、歩行者等の安全確保を図るため、安塚街道入口交差点の改良と併せて、国道4号の歩道拡幅に取り組んでいるほか、県においても歩行者等の安全確保、渋滞の緩和などを図るため、県道安塚雀宮線（安塚街道）の改良工事に取り組んでおり、雀宮工区が概ね完了しましたので、その先の五代工区の着手に向けた準備を進めている。

また、市においても、児童の安全性の確保に向け、雀宮中央小学校の通学路でもある市道704号線の歩道拡幅工事などに取り組んでいるところであり、今後は、幹線道路である国道4号線や安塚街道などの工事の進捗により、周辺の交通状況の変化が見込まれることから、交通状況の変化を見極めながら、市としても適切に対応していく。

次に、河川改修については、「宇都宮市総合治水・雨水対策推進計画」に基づく「流す」取組として、針ヶ谷町を流れる「西川田川」、また茂原町を流れる「給分川」の2河川の改修を下流から進めているところである。「新川」については、雀宮地区内の河川整備が完了しているところであるが、より浸水に対する安全性を高めるため、現在上流域の陽南地区と陽光地区において、調整池の整備を進めている。

次に、田んぼダムや調整池等については「貯める」取り組みとして、令和元年東日本台風で浸水被害が大きかった田川や姿川の上流域にあたる、豊郷地区・新里地区などにおいて「田んぼダム」の整備を行うとともに、学校や公園を活用した貯留浸透施設の整備などによる流出抑制対策に取り組んでいる。今年度、田川や姿川上流域での「田んぼダム」の整備が完了することから、更なる「貯める」取組の拡充に向けて、雀宮地区を含めた、他の地域についても導入を検討していく。

次に、新川の浚渫については、これまでも土砂の堆積状況に応じて、計画的に実施してきたところである。雀宮地区においては、今年度さつき3丁目付近における浚渫を予定している。新川については、下流部が一級河川であり、県の管理となることから、市と県が連携して対応を図るとともに、今後とも、河川パトロールなどを通じ、危険箇所を早期発見に務め、浚渫をはじめ適切な維持管理に取り組んでいく。

③

次に、三つ目のデマンドタクシーであるが、雀宮地区においては、毎年着実に導入自治会を拡大し、現在では23自治会、延べ3万3千人を超える方々に利用されるなど、日常生活を支える最も身近な移動手段として定着しており、

これは、地域運営組織の皆様をはじめ、地域の方々にご尽力を頂いているおかげであると、改めて感謝を申し上げます。

先ず、事業の改善や利用促進について、雀宮地区では、定期的な利用促進チラシの作成・配布に加え、令和3年度からは、他地区に先駆けて「自動車の運転免許返納者に対する回数券助成制度」を導入するなど、地域内交通の利用促進策に積極的に取り組んでいただいております。実施にあたっては、本市も地域のワーキングに参加をさせていただくとともに、他の地区においても同様の取り組みが広がるよう、各地区の運営組織の代表者で構成される「地域内交通連絡会議」において、先進事例として紹介させていただいているところである。

また、運行事業者との価格交渉の事務については、毎年度の契約更新時に地域運営組織が運行事業者から徴取した見積価格が適正であることを事前に市が確認するなど、地域における事業者選定の事務を支援しているところである。引き続き、雀宮地区の皆様が、より便利に公共交通をご利用いただけるよう、予約・配車システムの導入や利用促進策の実施など、更なる利便性向上や認知度向上、新規利用者の更なる獲得に、地域とともに取り組むとともに、運行事業者の選定をはじめとする事務を担う地域運営組織に対して、適切な支援を行っていく。

■地域代表意見 2（要旨）

テーマ	防災情報の収集と伝達について
-----	----------------

防災について意見を發表させていただきます。

先月の9月4日、6日に、宇都宮市でも記録的短時間大雨情報が出されたり、一部地域で避難指示が出され、避難所が開設された。また、県内で23件の床上や床下浸水のほか、道路冠水などの報道もあった。

このような災害時に大切なのが、防災情報の収集と伝達である。

災害により被害が発生した時、適正に対応するため、災害情報の正確で迅速な収集・伝達が重要である。市や消防署などと市民が共通の認識を持って行動することが大切である。

伝達すべき防災情報は、「人的被害や道路、建物被害の状況」、「ライフラインの状況」、「気象情報」などがある。市では、防災情報の周知のデジタル化に努めていて、防災情報メールへの登録を進めている。冒頭に話した、大雨のときにもこのメールで私は気象情報をはじめ、市からの避難情報、避難所の開設など、市民に有用な情報が届き、市民の防災対策につながるものと実感したところである。

一方で、デジタル化に馴染めない高齢者などには、緊急告知機能付き防災ラジオの購入補助があるが、それに加えて、普段から使いやすい、手元に置ける冊子を希望する。

例えば、市で発行している「わが家の防災マニュアル2020」の冊子をバージョンアップし、更に見やすく使いやすい冊子にすることで、安全・安心なまちづくりにつながるものと考えてるので、検討をお願いしたい。

なお、要望であるが、防災訓練時の起震車体験は評判も良く、多くの訓練参加者が体験を希望している。しかし、近年、故障しているようで利用することが出来ない。地震に備えるためにも、多くの訓練参加者が体験できるよう、起震車の復活を要望する。

回答	所管課：危機管理課，警防課
----	---------------

【市長】

雀宮地区の皆様には、地域で策定に取り組んだ「雀宮地区防災計画」に基づき、日頃から熱心に地域防災力の向上に取り組んでいただいていることに対して、感謝申し上げます。

近年、自然災害が激甚化・頻発化する傾向にある中、本市では、市民一人ひとりが防災意識を高め、取るべき避難行動の正しい理解を深めていただけるよう、広報紙への年3回の特集記事の掲載や「防災出前講座」の実施、地域における防災訓練への指導・助言を行っているほか、家族や地域の支援者等とあら

かじめ整理しておく，一人ひとりの防災行動計画である「マイ・タイムライン」の作成を呼び掛けるなど，様々な機会を通して防災知識の普及啓発に，積極的に取り組んでいるところである。

こうした中，「わが家の防災マニュアル2020」を充実することについても，より効果的な防災情報の提供に向け，洪水ハザードマップや土砂災害ハザードマップなどの各種ハザードマップと，防災情報を一体化した新たな冊子を出水期となる令和6年6月を目途に配布できるよう，作成を進めているところである。

また，起震車については，昭和56年の運用開始以来，防災訓練などの機会を通じ約25万6千人の方に震度7相当の地震の揺れを体験していただき，地震発生時に迅速かつ適切にガスコンロの消火や避難行動がとれるよう，啓発に取り組んできたところであるが，機器の不具合が発生致し，修理を依頼した。しかし，部品が廃盤となっており，修理が出来ない状態である。

そのため現在，本市においても最新のデジタル技術を生かした，より実災害に近いリアルな体験が出来る防災教育ツールの購入を進めるとともに，県が令和6年に整備予定のVR防災体験車の活用など，県との連携による体験機会の提供に向け，検討を進めている。

今後とも，子どもから高齢者まで，わかりやすい防災情報の発信に努め，市民一人ひとりの防災意識の醸成により，地域防災力の向上につなげていく。

■地域代表意見 3 (要旨)

テーマ	地域活動の市職員への参加促進について
-----	--------------------

地域においては「まちづくり」「むらづくり」など多くの分野においてボランティア活動により支えられているのが現状である。しかし、高齢者が多くなかなか後継者を発掘できない。毎年12月から1月頃には、促進運動を行っているが、なかなか見つからないのが現状である。80歳を超えて、今なおボランティア活動を続ける方々が数多く見受けられる。

この状況は、年金支給年齢が65歳になったことや、退職後の再雇用制度で仕事を続ける方が増えたことも原因の一つと考えられる。

今後の地域共生社会実現のために、市職員の退職後、地域での指導的立場でボランティア活動が出来るよう、市からも助言・支援をお願いしたい。市の見解をお伺いする。

回答	所管課：みんなでまちづくり課，人事課
----	--------------------

【市長】

雀宮地区の皆さんには、日頃から、「雀宮納涼盆踊り大会」や「雀宮ちゅんちゅんウォーク」など、様々な地域独自のイベントを開催していただいている。どれも歴史があるものであり、地域の連帯感を感じられるものである。

市職員が退職後に地域活動に参加することについては、職員が現役時代に培ったまちづくりを推進するための知識や経験、これらを活かしながら、地域で活動が続けることは大変意義があり、退職後も地域を支える人材として活躍してほしいと考えている。

こうしたことから、本市では、職員の退職者説明会において、地域活動の参加を促しており、昨年度は初めて、自治会をはじめとした地域団体の活動内容や、地域が求めている人物像、地域で活動に取り組む元職員の事例紹介などを具体的に説明するなど、退職後に地域で活躍できるよう、意識醸成に取り組んでおり、多くの退職した職員が、各地域において、自治会長や連合自治会長、まちづくり組織の代表など、地域の指導的立場において活動をされている。

また、現役の職員についても、地域活動に参加することは、自身の業務はもちろん、本市のまちづくりを推進するための貴重な機会であることから、新規採用時の研修において、地域活動への参加を呼び掛けるほか、すべての職員に対して、毎年3月から4月の自治会加入促進強化月間に合わせ、自治会への加入や地域活動への積極的な参加を働きかけているところである。多くの現役職員も自治会やPTA、消防団など、様々な地域活動に参画している。

今後とも、退職者説明会や職員研修など、様々な機会を通して、職員に対する地域活動への参加を働きかけていくとともに、引き続き地域活動の活性化・

活発化に向けては、地域に身近な雀宮地区市民センターの職員が、地域の実情に応じた支援を行っていくので、地域においても、引き続き、新たな人材の発掘や活動への参加しやすい環境づくりなどに、ぜひ取り組んでいただきたい。

■自由討議（要旨）

発言 1 雀宮南小学校の剪定ほかについて

雀宮南小学校には、木が大きくなり、境界からすごく長く伸びている木がある。これから秋の季節になると非常に落ち葉が落ち、地域で落葉掃きをしている。一方、小学校の西側にある雀宮体育館は、公益法人の宇都宮スポーツ財団が運営している。ここは敷地から出ないようにきちんと枝を切っている。何が違うのか教えてほしい。出来れば枝をきちんと剪定してほしい。

次に、前回、交通公園についてもっと有効活用が出来ないかという話をした。下原自治会は470世帯あるが、公園がない。そのため、公園にするのがいいのかどうか。もっと有効活用が出来ないか。財政の問題もあるため、資金をかけないで出来ないか検討をお願いしたい。

また、現在小学生はタブレット端末を持っているが、家庭の通信環境が整っていない児童は、学級閉鎖の場合や、あるいは児童が登校できなくなった時に、そのタブレットを使って家庭でオンライン学習での使用が出来ないと聞く。他の市区町村では使用している話を聞くのに、宇都宮市でも出来ないのか検討してほしい。

最後に、地域づくりについて市にも積極的に関わっていただきたい。ダメと言われるとそれから先進まないで、ぜひよろしくをお願いしたい。

回答 所管課：学校管理課，学校教育課，みんなでまちづくり課

【市長】

一つ目については、スポーツ財団や小学校の違いがあるのかという疑問をお持ちのようであるが、樹木等の管理については、いずれも対応は同じであり、木が生い茂って日影になり過ぎたり、歩行者に対して危害がないように管理をしている。特に小学校については、学校の意向やPTAの皆さんの意向を聞き取りながら行っている。

また、木を伐採することについて、ある小学校では、学校やPTAの皆さんからの要望があり、地域の方々の同意も得て、長年学校を守ってきた木を切ったところである。さらに、定期的に木の点検等を学校業務機動班が行っており、学校業務機動班では手に負えないときには、業者に依頼をして、木の手入れ等を行っている。

また、倒木して事故が起こることも想定し、今年、市内小学校・中学校の校庭内の樹木の診断、調査を一斉に行っているところであるため、弱っている木や倒木の恐れのある木は、学校と連携を取り、伐採等を行っていききたい。

続いて二つ目の交通公園の有効活用について、こちらについては当然地域の

皆さんのご意見も聞きながら進めていきたいと思う。そのため、地域の意見の取りまとめをしていただきたい。

三つ目のタブレットについては、家庭で持ち帰って学習が出来るようコロナ時において、学校や学級が休業となり授業ができない時、いわゆる「学級閉鎖」等の場合に、オンラインの学習ができるよう本市では進めてきた。恐らく全国でも早く導入した。通信環境が整わない家庭に対しては、市が通信契約したルータを貸与して、すべての子どもたちがオンラインに参加できるように整えているところである。

また、地域作りについては、地域が主役であるので、行政としても地域の皆さんと一緒にやっていきたいと思っているので、地区市民センターにもどんどんお話をいただきたい。

発言 2 最悪を想定した行政運営について

先程、市長の市の取り組みの話聞き、これからの宇都宮市の在り方について、認識を新たにしました。

しかし、物事を進めるにあたり、いくつか本当にそのように進んでいくのかと、疑問が湧いた。例えば「L R Tが順調に延びればいいが、延びなかったらどうなるのか」、「防災についても、このように言っているが、最悪の事態が起こるのではないか」などが考えられる。

もし具体的に最悪の場合について、このような取り組みや考え方をしているものがあれば、教えていただきたい。

回答 所管課：政策審議室，財政課，NCC推進課

【市長】

最悪の事態を想定することは重要であり、「第6次総合計画」を推進する上では、実施計画等をローリング方式で策定し、予算についても、中期財政計画に基づき、将来負担などを考慮し編成しているところである。中期財政計画については、景気や物価の動向を考慮しつつ、本市が目指すまちづくりの実現に向けた取組等を示すとともに、不測の事態に備え、財政の健全性や長期安定性を確保できるよう、作成しているところである。

また、まちづくりについては、冒頭の市の取り組み紹介の中でも案内したとおり、何も手を打たなければマイナス10万人の人口減少となってしまうところを、何とか努力をして、半分の5万人の減少に抑えていこうとしている。また、人口が減少しても支え合える社会を作っていくために、ネットワーク型コンパクトシティのまちづくりを進めているところである。

具体的には「立地適正化計画」を作り、コンパクトなまち（拠点）を複数作っていく。そこに住宅や必要な都市機能の誘導を図り、行政が責任をもって誘致を行っていく。そして、日常生活に困らない、365日生活がしっかりできるまちづくりを進めていく。そのようなことを念頭に、市としては最悪の事態にも対応できるよう、まちづくりを進めている。さらに、これらについては、毎年ローリングをしているので、その時の状況や経済的な変化、自然災害等の変化に応じて毎年見直しをすることで、行政としてまちづくりを丁寧に、慎重に進めているところである。

発言 3 道路整備について

安塚街道や雀宮駅に向かう道路拡幅がほぼ終わり、歩道が広がって歩行者が歩きやすくなっただが、障がいがある方や視力障がい者の方に向けての取り組みがなされていないように思われる。新しく歩道が広がったにも関わらず、点字ブロックがない。それらの方々に向けての取り組みとして点字ブロックや外灯がなく、弱視の方には暗くて歩きづらいと思われる。それらの整備計画は、まだ続いているのか。

回答 所管課：道路保全課

【市長】

ご意見をいただいた道路の拡幅整備については、栃木県で実施しているところである。今回の御意見については、私たちから整備主体である栃木県に、このような御意見があるということをお伝えさせていただきたい。

発言 4 子育て支援ほかについて

子育て支援についてであるが、雀宮地区、特に私が住んでいる茂原地区は、市の南端にあるため、中心地からは遠く、「市の子育て支援が届きにくい」と感じている。まず、市全体の子育て支援の情報はたくさんあるが、この地域ならではの受けられる支援や、「この近くにこのような子どもの遊び場があるよ」、「このような施設があるよ」など地域ならではの情報が、ほとんど入ってこないで、そのような情報が入ってくる環境を作っていただきたい。

また、この周辺は保育園が多くなく、選択肢が少ないと感じている。市の政策もあると思われるが、保育園の充実もお願いしたい。

さらに、道路整備について、雀宮南小学校の周辺も、まだ危険だなと感じる場所がたくさんある。歩道が狭い、縁石で区切られてない場所があるなど、雀宮南小学校の子どもが車にひかれるという事故も最近あり、もう少し子どもや高齢者が歩いていて、安全かどうかという視点で、道路整備を進めていただきたい。

回答 所管課：子ども政策課，公園管理課，保育課，道路保全課

【市長】

まず、子ども施策の情報については、子ども部で子どもに特化した様々な情報を出しているが、更にSNS等も使用し、情報が行き届くよう取り組んでまいりたい。

また、子どもの遊ぶ場所については、子どもの居場所づくり、これも更に拡大をして参りたい。中心市街地だけでなく、公園についても種別に応じた計画的な配置となるよう整備しているところである。遊具についても子どもたちが遊べるように安全な遊具の設置とその点検作業、これらも怠らずに行っているところであるので、これからも子ども達が遊びやすい、そのような居場所についても考えていきたい。

保育園については、エリアを分けて提供している。本市では平成29年度から4月1日時点での待機児童は7年連続ゼロであるが、その現状に甘えることなく、保育需要にしっかりと応えられるよう、供給体制を維持してまいりたい。

また、歩道については、安全確保のための整備・舗装のし直しを行うとともに、歩道等が確保できない狭い道路等については、拡幅については住居等があった場合、なかなか進めることが難しいこともあると思われるが、歩道の確保と歩道の整備に努めてまいりたい。さらに、その整備にあたっては、子どもや高齢者がベビーカー等を押しやすい、車椅子の方にとっても外出しやすい環境を作っていく。整備にあたっては、しっかりとバリアフリー化や弱者に対する配慮を考えた整備を行ってまいりたい。

発言 5 宇都宮市の役割について

宇都宮市はコンパクトシティやLRTなど、素晴らしい発展をしている。さらに宇都宮市の位置づけとして、栃木県宇都宮市として、食文化や観光文化など宇都宮市を起点に、例えば、はとバスのような観光バスを活用し、外国人誘致を行い、観光資源を活用していくことができると思う。宇都宮市は栃木県を支えていると思うので、栃木県の発展のためにも頑張っていたきたい。

回答 所管課：観光交流課，商工振興課，農林生産流通課

【市長】

ご指摘のとおり、宇都宮市は栃木県の県庁所在地であるので、県庁所在地としての役割をしっかりと果たして行くということを考えている。栃木県の県庁所在地がしっかりしていないから栃木県が発展しないということにならないよう、商業・工業・農業などの点で様々な施策を講じて、県庁所在地としての役割を果たせるよう、努力をしているところである。

観光については、日本遺産として認定された「大谷石文化」を大きな武器として、インバウンドの方々、特に日光まで行ったお客様が宇都宮を通過点としないよう、「大谷石文化」なども活用し、出来る限り一日宇都宮に泊っていただける滞在型の観光を今進めているところである。それにより日光や那須、益子、佐野などに来た観光客が足を延ばし、栃木県内全域が潤っていく。そのような役割を担えるのではないかと思っている。

また、工業と商業・農業については、大きな柱となっていて、このバランスが良いのが宇都宮市の特徴である。このような市は県内の中でも宇都宮市だけであるので、更にここに磨きをかけていくとともに、工業であれば製造品出荷額、商業であれば年間商品販売額、そして農業であれば粗出荷高、これらすべて中核市62市中全て上位に入っているのです、これらを県庁所在地として、更に安定させ、そして伸ばしていきたいと考えている。

ご指摘のように宇都宮市の役割を、しっかりと栃木県の中で全うしていきたい。